

評価報告概要表

■第三者評価機関

名 称	社会福祉法人 山口県社会福祉協議会
評価調査日	平成 30年 2月 15日 (木)

■福祉サービス事業者情報

名 称	高嶺園	種 別	障害者支援施設
代表者氏名	施設長 綿谷 強	開設年月日	昭和56年8月
設置者	社会福祉法人 高嶺会	定員(利用人数)	70名(65名)
所在地	〒755-0084 宇部市大字川上714-11		
電話番号	0836-32-1321	FAX番号	0836-32-1322
ホームページアドレス			

■総 評

全体を通して(事業所の優れている点、独自に工夫している点など)

◇特に評価の高い点

- ・2回目の受審です。「前回の受審からようやく第三者評価を受審できる体制が整った」との決断による受審であり、敬意を表します。
- ・法人の理念は「無限真愛」です。施設長は、この理念を具現化するためには、「職員が優しいのが絶対条件である」と職員に熱く語り、また職員も理念を実践するため、「丁寧で安全な介護を提供すること」を目標として、職員同士で切磋琢磨しています。
- ・ノーリフティングケアを先駆的・実践的に導入されており、天井走行式リフトが整備されています。また、ハード面だけでなく定期的な研修や移乗介護大会を行ったりと、職員の技術向上に努めていることは高く評価されます。
- ・福祉避難所として機能できるよう屋外に障害者用トイレを設置し、太陽光発電や井戸を整備するなど、施設の機能を地域に還元するため、積極的な防災対策がなされています。
- ・看護師を基準以上に手厚く配置し、夜勤も行うことで利用者の安全・安心につながっています。
- ・タブレット端末を各部署に配置することで、職員が瞬時に利用者の情報を共有でき、かつ効率的に記録できるよう工夫されています。

◇改善を求められる点

- ・中・長期的なビジョンはイメージとして施設長の頭の中にあり、日々の支援の際にも職員に明言しています。しかしながら、明文化したものはなく、単年度の計画も行事計画的な要素が強いため、具体的・段階的な中・長期計画と、それに基づく単年度計画の策定が求められます。

■第三者評価結果に対する事業者のコメント・事業所のPR

現在、法人・園の置かれている状況を、第三者の目でみていただき、多岐にわたる広い分野について、どれくらいのレベルなのか判断をしていただきありがとうございました。利用者さんへのサービスについて、よい評価をいただき、職員の日々の努力に感心しました。今後はこの結果を受けとめて、改善できるところから少しでも良い方向へ向かえるようにしたいと考えます。

職員にとっても、不安に感じながらも実施してきた利用者さんへのサービスの評価をしていただき、見直しをするよい機会になりました。よい評価には自信をもってサービスを実施し、今一步のところはさらに改善して、利用者さんによりよいサービスを提供しなければいけないと思いました。

評価報告概要表

■評価分野別評価結果(分野別の特記事項)

I 福祉サービスの基本方針と組織	a	4	b	5	c	0	Na	0
<p>●理念・基本方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長は、法人の理念である「無限真愛」とは「職員が優しいのが絶対条件である」ということを職員に熱く語っており、日々の実践の中で出来ているかどうかを常に注視しています。職員もこのことを自覚しており、現場実践で理念に忠実であることを職員同士で確認し合っています。 ・理念を具現化するため、組織的・効率的にサービスが提供できるよう努めています。 <p>●経営状況の把握について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長をはじめ職員は、全国の研修会に積極的に参加して社会福祉事業の動向を収集しており、自施設で実施できることはすぐに実施しています。このスピード感や実行力は高く評価されます。 <p>●事業計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長は思いや構想を明確にしていますが、中・長期計画の明文化が望まれます。 <p>●福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会の種類が多く充実しています。委員会ではサービス向上のための分析と提案がなされており、改善提案委員会で実行されています。 								

II 組織の運営管理	a	12	b	6	c	0	Na	0
<p>●管理者の責任とリーダーシップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設長は最新の情報を得るために、積極的に全国の研修に参加して情報を収集しており、その中で実行すべきことはすぐに決断実行しています。また、地域の情報も、自治会と連携して収集しています。 <p>●福祉人材の確保・養成について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人事考課に個々の職員の目標や希望が明記されており、職員も積極的に研修に参加しています。また、主任サブリーダー制度を導入することで新人育成を試み、さらに任用替え制度により職員の育成を図っています。職員も「優しいのが絶対条件である」との理念に応えるために業務に励んでいます。 <p>●地域との交流、地域貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設は福祉避難場所に指定されており、防災訓練を実施するなど、地域と積極的に交流しています。また、実際に避難所として機能できるよう、屋外に障害者用のトイレを設置し、常時避難場所としての機能を備えています。 								

評価報告概要表

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施	a	17	b	1	c	0	Na	0
----------------	---	----	---	---	---	---	----	---

●利用者本位の福祉サービスについて

- ・利用者の高齢化により介護が過重になっているとのことですが、介護リフト等の整備で利用者の安全に取り組んでいることは高く評価されます。
- ・パンフレットは利用者に分かりやすい内容にするとともに、施設の機能を地域に広く知ってもらうため、公共施設等にも設置することが望まれます。
- ・「排泄介護専用の部屋」や個別の対応ができる「安らぎ室」など、利用者のプライバシー保護や個別支援に工夫がなされています。

●福祉サービスの質の確保について

- ・介護に注意を要する利用者が多く、日々の状態を瞬時に共有する必要性が高いことから、タブレット端末を導入し、全職員が情報共有できるように努めています。タブレット端末は各部署に設置されており、その場で効率的な記録ができるように工夫していることは高く評価されます。

Ⅳ 良質な個別サービスの実施	a	29	b	2	c	0	Na	3
----------------	---	----	---	---	---	---	----	---

●利用者の尊重について

- ・個別の支援計画にフリータイム制個別支援を取り入れ、担当支援員が利用者の主体性を尊重した取組がなされています。
- ・利用者の精神的安定やプライバシー保護のため、排泄介護専用の部屋が用意され、その他にも「安らぎ室」「癒しの部屋」「マイルーム」など、個別の対応ができる部屋が用意されていることは高く評価されます。

●日常生活支援について

- ・ノーリフティングケアを組織的かつ先駆的に実践しています。また、積極的な天井走行式リフトの導入などは高く評価されます。
- ・移乗介護大会の開催等により、天井走行式リフトの利用技術向上が推進されています。このような定期的な研修の実施は高く評価されます。
- ・夜間においても看護師が配置され、必要時に迅速で適切な看護が受けられる体制が整っていることは高く評価されます。